# 平成11年度《共同募金・歳末助け合い募金》のご報告

平成11年10月１日から始まりました募金運動は、勝平地区の皆様より暖かなご理解とご協力をいただき、多大な成果をあげることができました。心から感謝申し上げます。なお、この募金活動を支えて下さいました関係者各位のご厚志に対しましても厚くお礼を申し上げます。

### 《平成11年度共同募金（赤い羽根）実績》

・目標額　1,994,700円
・実績額　2,047,822円
・達成率　102.6%
・全年度比　2,047,882/2,073,507＝98.7%

町内会別実績

| 町内会名 | 実績額 |
|---|---|
| 朝日町 | 95,500 |
| 朝日西町 | 42,000 |
| 豊町 | 135,000 |
| 割山町 | 167,000 |
| 船場町 | 132,000 |
| 勝平町 | 128,500 |
| 松美東町 | 100,000 |
| 松美西町 | 111,500 |
| 松美ガ丘町 | 297,500 |
| 勝平台 | 151,000 |
| 松美ガ丘北町 | 142,000 |
| 寿町 | 150,500 |
| 寿南町 | 43,500 |
| 南浜町 | 80,500 |
| 北浜町 | 133,000 |
| 勝平コーポ | 25,000 |
| 計 | 1,934,500 |

学校・職域関係

| 学校・職域関係 | 実績額 |
|---|---|
| 秋田警察学校 | 5,327 |
| 秋田商業高等学校 | 42,534 |
| 秋田市立勝平中学校 | 25,614 |
| 秋田市立勝平小学校 | 25,019 |
| 勝平養護学校 | 6,937 |
| 身体障害者訓練センター | 5,100 |
| 秋田カントリークラブ | 2,791 |
| 計 | 113,322 |
| | |
| 合計 | 2,047,882 |

### 《平成11年度共同募金(歳末助け合い)実績》

・目標額　630,000円
・実績額　612,857円
・達成率　97.2%
・前年度比　612,857/684,117＝89.5%

町内会別実績

| 町内会名 | 実績額 |
|---|---|
| 朝日町 | 41,000 |
| 朝日西町 | 13,800 |
| 豊町 | 62,910 |
| 割山町 | 30,000 |
| 船場町 | 44,193 |
| 勝平町 | 28,000 |
| 松美東町 | 46,520 |
| 松美西町 | 18,000 |
| 松美ガ丘町 | 64,000 |
| 勝平台 | 30,000 |
| 松美ガ丘北町 | 30,500 |
| 寿町 | 57,210 |
| 寿南町 | 29,100 |
| 南浜町 | 41,735 |
| 北浜町 | 59,879 |
| 勝平コーポ | 16,010 |
| 計 | 612,857 |

配分内訳

| 項目 | 件数 | 金額 |
|---|---|---|
| 心身障害児（者） | 15 | 75,000 |
| 要保護児童 | 31 | 93,000 |
| 成人施設入通所 | 3 | 15,000 |
| 老人施設入居者 | 38 | 114,000 |
| 在宅介護者 | 13 | 65,000 |
| 長期入院者 | 9 | 27,000 |
| 援護世帯 | 23 | 115,000 |
| おしめ代 | | 40,000 |
| ミカン贈答 | 8 | 21,321 |
| 事務費 | | 7,051 |
| 贈呈経費 | | 27,000 |
| 募金会寄託 | | 13,485 |
| 合計 | 140 | 612,857 |

### 《勝平地区全戸会員会費制の状況》

（平成11年12月25日現在）
・目標　4,193世帯×0.7＝2,935世帯
・12月25日現在　2,862世帯
・達成率（全所帯に対する）　68.2%

町内会別実績

| 町内会名 | 全戸数 | 会員戸数 | 達成率 |
|---|---|---|---|
| 朝日町 | 205世帯 | 205世帯 | 100% |
| 朝日西町 | 90世帯 | 63世帯 | 70% |
| 豊町 | 300世帯 | | |
| 割山町 | 340世帯 | 340世帯 | 100% |
| 船場町 | 284世帯 | | |
| 勝平町 | 288世帯 | 288世帯 | 100% |
| 松美東町 | 215世帯 | | |
| 松美西町 | 240世帯 | | |
| 松美ガ丘町 | 640世帯 | 640世帯 | 100% |
| 勝平台 | 325世帯 | 325世帯 | 100% |
| 松美ガ丘北町 | 305世帯 | 302世帯 | 99% |
| 寿町 | 324世帯 | 226世帯 | 70% |
| 寿南町 | 96世帯 | 96世帯 | 100% |
| 南浜町 | 180世帯 | 104世帯 | 57% |
| 北浜町 | 286世帯 | 273世帯 | 95% |
| 勝平コーポ | 75世帯 | | |
| 計 | 4,193世帯 | 2,862世帯 | 68.2% |

◎最終は12年２月29日締め切りと致します

## 編集後記

少子・高齢化が進み、地域との一層の関わりが求められてきた勝平苑や勝平小・中学校の関係者に、その実践模様や考え方等をお願いしましたところ、快くご寄稿いただき誠にありがとうございました。さすが地域に開かれた勝平苑とあって、多岐にわたる諸団体との交流の深さに驚嘆。石戸先生のボランティア＝清掃・プルタブ回収ではないこと、七尾先生の学校、保護者、地域の三者が連携して子供を育てていくこと、伊藤先生の25年後の中心となって社会を担う人間、つまり今の子供達がどういう大人に成長しているかが大切なことなどには、誰しも素直に耳が傾けられ、勝平に住む私達の今後の道標になるものとして、重ねてご寄稿された皆さんに厚くお礼申し上げます。（遠藤）




# かつひら

題字　秋田市長　石川錬治郎　揮毫

第 30 号
平成12年１月25日
新屋勝平地区社会福祉協議会
発行部数 4,500部


## 21世紀の勝平の人へ手渡そう、人間のぬくもりと福祉の心

手話で歌おう！（勝平中学校ボランティアのみなさん）

## 介護保険制度元年にむけて

新屋勝平地区社会福祉協議会
会長　野口良孝

2000年という大きな節目の新年を迎え、謹んで皆様のご多幸をお祈り申し上げます。少子・高齢化、グローバル化、情報化などが急速に進む中、さまざまな分野で、時代の変化に対応した社会づくりが課題になっており、豊かで安心な環境での共生社会を目指しいよいよ介護保険元年を迎えます。寝たきりや痴呆をはじめ、何らかの介護を必要とするお年寄りの数は、約280万人になると予測され、このように要介護のお年寄りが増えるということは、介護期間の長期化、病気の重度化、そして介護する家族の年齢も高齢化し「老老介護」になっていく状況が考えられます。いままで、こうしたお年寄りを介護する家族の介護の約９割を、女性たちで担ってきました。しかし、急激な高齢化社会の到来に当り、女性だけではこれを支え切れなくなり、いまや社会的な問題になっています。そこで、さまざまな介護問題の解消を目指し、社会保険方式としての「介護保険制度」がつくられました。この制度は、お年寄りのいまある能力を生かして自立した暮らしができるように手助けすること、利用者がみずからほしいと思うサービスが選択できることを特徴としています。

次の①②に該当する家族が居られる家庭ではすぐ秋田市介護保険窓口に相談して下さい。①（要介護状態）身体や精神に障害があるため、入浴、排泄、食事などの日常生活で基本的動作の全部または一部について６ヶ月間にわたり継続して常時介護を必要と見込まれる状態、また、②（要支援状態）身体や精神に障害があるため６ヶ月間にわたり継続して日常生活を営むのに支障がある方でともに65歳以上の方です。家庭で介護する人の半数以上が60歳以上と深刻化している状況から介護する人される人を社会全体で支えるこの制度を大事に育てながら21世紀にむけて、老後を安心して過ごせるように少子高齢化対策・生活習慣病予防活動に努めたいと存じます。皆様の益々のご活躍とご発展をお祈りしご挨拶と致します。

## まごころ

善意のご寄付、誠にありがとうございました。
この尊い寄付金はご厚志にそって、地区の社会福祉事業に有効に活用させていただきます。

篤志　佐藤信三様　5,000 勝平町
篤志　佐藤節子様　20,000 松美ガ丘北町
香典返し
（故畠山儀平氏）ご令室ツヤ様　50,000 寿南町
（故小林東美子氏）ご長男和光様　30,000 船場町

# 地域福祉の更なる進展を

老人保健施設勝平苑施設長
**綿貫　勤**

勝平地区の皆様、明けましておめでとうございます。平和と福祉の21世紀の幕あきを間近に、日頃の御芳情、お力添えに対し、勝平苑一同と共に心から厚く御礼申しあげます。

福祉とは幸せ。皆で幸せを築くこと。

平成６年４月の施設長着任に先立ち、当勝平地区では以前から地域ぐるみの助け合いが盛んで、勝平苑にも地区婦人会や勝平保育園の皆様の御慰問御来訪を頂いていることを伺っておりました。そこで私はまず何よりも、勝平苑を地域の皆様にとって親しみ易い施設に、また明るく楽しい交流の場にと考えました。

お蔭様でその後次第に勝平中学校や地区諸団体との交流も深まり、因みに、苑のある北浜町内会とは、遠藤会長の御好意により、総会、清掃その他、町内会諸行事への私共からの参加だけでなく、消防署勝平出張所の御指導による苑での防災消火避難訓練や救命救急訓練、大森山動物園遠足、恒例の勝平保育園とのお花見などへのちとせ会（北浜町老人クラブ）の方々のボランティア、さらには子供会代表の花束慰問など、色々な形でお力を頂いております。御要望による施設での体験リハビリも好評で、今後は年中行事として勝平地区全町内会の方々をお誘いしたいと考えております。

現在の主な交流施設・学校は、勝平保育園、勝小、勝中、西中、市商、新屋高、和洋高、秋田短大、秋大などですが、例えば勝平保育園児の皆さんとの年数回の歌と遊戯、また心とからだの触れ合いは、すべてのお年寄りに明るい力と自立への意志を蘇らせて下さっています。

ところで、特にここ20年来、保健・医療・福祉の緊密な連携、また福祉の社会化が強く叫ばれています。勝平地区社協、町内会、婦人会等を中心に、近在医療期間、老健、特養、在宅医療福祉支援機関等相互の、また保育所・幼稚園、小中高校、養護学校等相互の理解・交流・協力が進み、高齢者・児童（働く親と子の育ち）・障害者福祉の活動がひとしく拡充し、「福祉の勝平地区」の名をさらに高めたい。そして私共にもその一翼を担わせて頂きたいと念願いたしております。

※綿貫施設長さんは、他に東北大学名誉教授、秋田市社会福祉審議会委員長等の要職にも就かれ、ご活躍されております。

苑の夏まつり会場で、手踊りを披露する勝平地区婦人会の皆さん

お花見に北浜町老人クラブからボランティアで参加

おじいちゃん、おばあちゃんお元気で！大声で唱和する勝平保育園児さん

懐かしの唱歌の演奏に涙ぐむ人もおりました（勝平大正琴の皆さん）



# 悩みは同じ、いかにしたら市社福協の“全戸会員・会費制”が理解され、協力を得られるか

## —— 秋田市六地区社会福祉協議会交流研修会 ——

昨年11月20日、大町の第一会館本館において本年度の在市六地区社福協（築山・茨島・旭南・川尻・旭北・勝平）の交流研修会が、持ち回りの当番となった私達勝平地区の主催で行われました。会は遠藤副会長の司会、野口会長の議長役で和気藹藹の中にも熱っぽい意見や議論を交えながら進められましたが、やはり論議が集中したのは、昨春スタートした“市社福協の全戸会員・会費制”についてでありました。今のところ各社福協とも加入状況にバラツキはあるにしても、２月末までにはなんとか形のあるまでに漕ぎつけることで要約されましたが、地域全般に関心がうすい中、特に、町内会に加入していないマンションやアパートの居住者からは殆ど理解・協力が得られないこと。介護保険と社福協の事業がダブルのではないかの疑問。個々の徴収はむずかしいので町内会負担をお願いしても財政事情が区区であることなど、先に行われた勝平地区振興会理事会でも討議された事がらが挙げられました。

その他、歳末助け合い運動は職場・ＮＨＫ・民放等とも重なり、地域から集めるのは容易でないこと、しかし茨島地区の野菜の直販やバザーの売り上げ金、川尻地区のこれまで３台の車椅子を施設へ贈るなど参考事例も出されましたが、対象となる母子・父子家庭、生活保護、寝たきり等の情報は悉く民生委員にだけ流され、社福協には入ってこないの手厳しい意見も出されるなど、これまでなく密度の高い充実した交流会であったと他地区社福協の大方の皆さんから評価を受け、主催者側として面目を施すことができました。

発言者・聞く人の表情はどっかの議員さんよりも風格があったよ

議長さんの意見のまとめ、進行も実にお見事でした

### “だっこちゃんクラブ”好評です

２年目のだっこちゃんクラブが開催されました。ゲーム・人形劇等、盛沢山のメニューで、皆さんをお待ちしております。子どもの喜ぶ顔が、私達には最高です。

共に学び、遊び、楽しむクラブです。

くわしくは、渡辺栄子（824－3535）まで

皆さん、おとなしくてお利口さんですネ

## 車椅子を貸出しいたします

高齢者・障害者及び骨折等の方を対象に通院、買い物、散歩など一時的に車椅子を必要とされる場合、次の要領により貸出しいたしますので遠慮なくお申し込みください。

1．貸出し期間　　原則として１週間（長期利用を希望される方は市の社会福祉協議会 862－7445へ）
2．利　用　料　　無料
3．申し込み及び手続き等　　勝平コミセン（862－1618へ）

当面２台より用意されておりませんので、電話で空き状態を確認のうえ、備え付けの利用簿により申し込んでください。

なお搬出・搬入は利用者又は家族の方にお願いします。

4．実 施 期 日　　平成12年２月中旬

## ボランティアの心

勝平中学校
後期生徒会担当　石戸　伸一

「私たち中学生は、自分たちの住む地域に真に貢献できているだろうか」。これは、前任校で行われた全校生徒参加によるディベートのテーマである。なかなか熱のこもった話し合いが行われたように記憶している。

今、秋田市の各中学校で、盛んにボランティア活動が行われている。プルタブ回収・地域清掃…生徒たちはボランティアという言葉から、すかさずそれらの活動を連想するように思う。もちろん、その活動自体有意義ではあるのだが、それ以上に生徒の中に地域の課題を切実に受け止める心や、地域の人々との関わりを大切に思う気持ちが育つことを願ってやまない。その心があれば活動の幅は無限の広がりを見せる。そう、ボランティア＝清掃・プルタブ回収ではないのである。

勝平浜清掃で集められたゴミの山に、これが地域の実態なんだと唖然としていた生徒達。その気持ちを大切に育てたい。そして、「私たちも地域の一員として貢献していきたい」という思いが、少しずつでも芽生えていくことを願っている。

## 「地域学習」への協力を

勝平中学校
研究主任　七尾　尊志

本校では夏休みに、１年生では「飛び込め！勝平の未体験ゾーンへ」というテーマで、勝平の歴史、自然、環境、職業施設について現地訪問・インタビューなどの調べ学習を実施しました。

また、３年選択社会科の学習では、「わが町勝平を調べよう」という内容で、雄物川放水路ができた理由、鹿島祭りや勝平寺の由来などについて調べるなど、地域に関する学習が年々増える傾向にあります。

最近では、「ふるさと教育の充実」、「開かれた学校づくり」が叫ばれ、学校、保護者、地域社会が連携しながら、共に子どもを育てていくことが一層重要になっております。

今後さらに「総合的な学習の時間」の導入に伴い、ますます地域に関わる学習・体験的な活動の充実が求められます。地域の皆様方には勝平中の教育・生徒のために、スクールボランティア講師やテーマ学習の受け入れ先として、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 勝平の地域清掃

▶登校途中のゴミ拾い

◀校舎・校地周辺の投棄物

## 意外に多い心の障害者
## 大盛況だった講演会

去る12月11日、勝平コミセンで行われた勝平地区婦人会共催の秋田回生会病院副院長田代哲男先生による「誤解していませんか心の病気」の講演会に80余名の方が出席し、先生のユーモアを交えた、いろんな事例が披露され、時には笑い、時にはギクッとし、時には安堵するなどアッという間に予定の１時間30分が過ぎ去った講演会でした。なにかと煩わしい世相や日常生活、誰しも大なり小なりのストレス（心理的葛藤）が生ずるのは当然のこと、問題はそれをどう解消できるか、“病は気から…”の先人のたとえは今なお立派に生きていることを、出席された多くの皆さんは感じられたのではないでしょうか。――

# 21世紀に向けて

勝平小 道徳主任　**伊藤　由好**

最近よく2025年の話を聞く。25年後の日本は未だかつて経験したことのない大変な時代になっているというのだ。その話によると、日本の人口の４人に一人が高齢者で、さらに、４人に一人が子供と家庭に入った女性。つまり25年後には、成人一人が一人の高齢者や子供たちを支える時代になっているのだそうだ。

今の社会は、公共施設はもちろんのこと、各家庭でもバリアフリーが盛んに進められ、お年寄りや小さい子供たちが住みやすい環境をつくっていこうという動きがみられている。おそらく25年後には、今よりも住み良い環境が整えられていることであろう。

しかし、一番大切なことは、その時代に中心になって社会を担う人間、つまり今の子供たちがどういう大人に成長しているかということではないかと思う。環境を整えることも大切であるが、同時にその中で生きている人間の心が温かく、豊かであることが、今以上に求められてくると思う。

勝平地区には福祉施設がたくさんあり、勝平小の子供たちは、障害をもった方々やお年寄りの方々と触れ合うことができやすい環境にある。二学期末に地区の勝平苑を訪問した“あったか交流委員会”の一人がこんな事を作文に書いていた。

「私は、勝平苑を訪問し、お年寄りの人たちと接して、あんなに『ありがとう。』と言われてうれしかったことはありません。（中略）心から喜んでくれている人たちからもらった『ありがとう。』をこれからも大切にしていきたいです。」

今、目の前にいる子供たち、来るべく21世紀を支える子供たちが、人に喜んでもらえることの喜びを知り、心豊かな人間として成長していけるよう、これからもこのような交流活動を支えていきたいと思う。

※写真は器楽演奏で勝平苑を慰問に訪れた勝小の皆さん

## “在宅ひとり暮らし高齢者の集い”（Bブロック）開かれる

### 平成11年11月６日勝平コミセン（68名参加）

先に行われたAブロックに続いて朝日町、豊町、割山町などBブロックの“ひとり暮らし高齢者の集い”が去る11月６日勝平コミセンで行われました。

お馴染みの高橋福祉推進部長の“先ずは手のひらをヒラヒラ……”のリラックス体操を皮切りに、女性福祉委員の手作り料理に舌鼓を打ちながらの歓談、午後からはカラオケ、舞踊・民謡等に興じ再会を約しながら２時半過ぎにフィナーレとなりました。※写真は会場風景